

私たちが勉強をする理由

リヴェラ 陽子

クリティカルシンキングは私たちの人生に欠かせないものです。それを体得するためには、周りの人の導きに加え、時間と忍耐を要します。私たちは何歳からでもクリティカルシンキングを学ぶことができますが、皆が成長する過程で学ばば、人生はずっと楽なものになるでしょう。クリティカルシンキングを身につけていれば、明確な答えが無い問題であっても答えを導き出すことができます。クリティカルシンキングはただ単に「なぜ」という質問を問いかけるだけで教えることができます。そのパワーのある問いは、自分の生きる世界に驚き始めた小さな子どもたちがよく口にするものです。子どもたちは「なぜ」と問い続け、答えを得た後でさえも、また口を開けて「なぜ」と続けます。終わりはありません。人は本来、好奇心旺盛です。子どもたちは目に映るものに吃驚しますが、ある時から「なぜ」という問いを口にしなくなります。いつ、そしてなぜ、子どもたちはそのパワフルな言葉を使わなくなるのでしょうか。いつから子どもたちは屋根の上で雨が音を立てることや、木の葉が風に舞うこと、鳥が列になって飛んでいくことや、太陽が毎朝空に戻ってくることに驚かなくなるのでしょうか。

子どもたちは成長するにつれて、学校の勉強で忙しくなります。そして忙しくなると「なぜ」という問いをどこかへしまつて、言われたことをこなすことに集中するようになります。与えられたことで忙しくなり、子どもたちは内にある疑問や学ぶことの喜びを忘れてしまうのです。私たちは学校の勉強が、主に「良い」人生を得るために入試で「良い」成績を取るためだということを否定できないでしょう。学生は成績と関係の無い学習の機会があったとしても、試みる価値があるとは思いません。時間や労力を試験と無関係なものに費やすのは効率的ではないと考えるからです。そういう訳で学生は暗記事項に取り組みます。歴史や科学などの暗記事項に。しかし、クリティカルシンキング無しでそのような知識が学生に何をもたらすのでしょうか。

私たちがこの世界に存在し始めた時から、私たちはずっと「もっと良い」人生を求めて発展してきました。物をたくさん持つことや大企業でキャリアを積むことは、かつては良い人生の証でした。大きな家に住んで高級な自動車を所有していると、人はあなたのことを成功していると思ったかもしれません。その成功した人生に見栄えの良い犬を加えてもいいでしょう。私たちはそのような人生を得るために他者といつも競争をせざるをえない状況にありました。後れを取ることは許されず、あらゆる



ことを効率的にするように努力をしなければなりません。いつの頃からか、効率が私たちの価値観の大部分を占めるようになりました。しかし、その効率は正しく扱われることはありませんでした。

誤った効率を追及するとどのような影響をきたすのでしょうか。何よりも私たちは不必要に忙しくなっていました。私たちは毎日予定でいっぱいです。自動車で遠くに出かけられ、誰にでもすぐに連絡を取ることができるからです。私たちがそんな「良い」人生を手に入れているからです。しかしながら、効率は私たちの人生の最も大切なものを殺してしまうことがあります。例えば、野菜畑に虫を取り除くために農薬を使うと、それは効率的に野菜を育てているように見えます。しかし、次第にその土地は荒廃し、そこで育った食べ物は人を傷つけることになるでしょう。虫は野菜を食べるかもしれませんが、しかし同時に、虫はその土地を豊かにもしてくれるのです。農薬を使用することで、作り手は見栄えの良い野菜を収穫できるかもしれませんが、一見、それは利益をもたらす、効率的であるかのように見えますが、長い目で見ると、そうではありません。損なわれた土地からは良いものは何も生まれません。同じように、学生は朝から夜まで学校や学校の後の習い事、それから友達との関わりに大忙しです。何もかもがもっと効率的に学び、もっと効率的に友達と友好関係を築くためですが、その行動は健康的だと言えるのでしょうか。学生が疲れすぎて、勉強したことを覚えていられないほど何時間も勉強に費やすことは本当に効率的なことなのでしょうか。また、答えを与えられることに慣れてしまい、疑問を投げかける能力を失ってしまうことは本当に効率的なことなのでしょうか。結局、このような効率は本当に効率的だとは言えません。盲目的に効率を追い求めた結果、この世界は複雑な迷路に変えられてしまいました。このような世界の中で、自分の好きなことを見つ